

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 6 月 2 日現在

機関番号：27401

研究種目：挑戦的萌芽研究

研究期間：2016～2016

課題番号：16K13339

研究課題名(和文) 黒人社会の多元化と脱人種の政治

研究課題名(英文) Polarization of the black society and post-racial politics

研究代表者

松岡 泰 (MATSUOKA, Yasushi)

熊本県立大学・総合管理学部・教授

研究者番号：40190425

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 500,000円

研究成果の概要(和文)：昨年4月、熊本地震が発生した。本学は震源地の益城町に隣接し、研究室はビルの最上階であったため、情報機器や書架等を含め、研究室内のすべての設備が壊滅的に破損した。研究室が復旧したのは半年後である。研究する十分な時間を確保できなかった。

他方、2016年アメリカ大統領選挙戦で、トランプ候補は人種間の緊張を煽って白人票を獲得したため、人種差別問題が再燃し、政治的分極化が深刻化した。

その結果、研究計画を変更せざるを得なくなった。論文「トランプ現象とアメリカの分極化」では、トランプ候補の選挙戦略の分析を通して、トランプ支持派とヒラリー支持派の世界観の違いを、統計資料を駆使して説明した。

研究成果の概要(英文)：The 2016 Kumamoto earthquakes occurred in mid-April. The Prefectural University of Kumamoto is located near the hypocenter and my office is on the top floor of the building. As a result of it, severe damage occurred in my office, with all kinds of office machinery destroyed. It took me a half year to recover my office. I did not have any time to research.

On the other hand, presidential candidate Donald Trump brought with him political polarization because he discriminated against minorities and roused white nationalism. Racism and ethnic discrimination have become a major issue.

Therefore I could not help changing my original plan under these circumstances. I changed the subject of my theme from "the pluralism of the black communities" to the Trump phenomenon. In my article called "The Trump phenomenon and political polarization in the U.S.", I explained the differences of the worldview between the Trump supporters and the Clinton supporters by using many kinds of statistical data.

研究分野：政治学

キーワード：トランプ旋風 脱人種 分極化 社会的亀裂 マイノリティ 選挙戦略 南部戦略 白人中間層

## 1. 研究開始当初の背景

### (1) 科学研究費助成事業申請時の本研究の位置づけ

わが国の黒人政治研究は、大別すると4段階に分けられる。第1段階は本田創造氏や猿谷要氏に代表されるように、黒人差別のルーツとしての奴隷制及び19世紀末の南部に成立した人種分離制度の研究である。

第2段階は1950年代から70年代にかけて全米を揺るがした公民権運動に関する研究で、南部の人種分離制度に抵抗したキング牧師に代表される公民権運動関連の研究である。この分野の研究の蓄積は、豊富である。

第3段階は、公民権運動以後の黒人政治研究で、その先陣を切ったのは上坂昇氏である。上坂氏は積極的差別是正措置という制度に焦点を当て、黒人が体制内に編入されていく過程を説明した。さらに松岡泰は公民権活動家とは区別される黒人政治家の台頭に着目し、それがアメリカ政治で果たす役割に注目した。

これまでの第1段階から第3段階までの研究に共通しているのは、黒人を一枚岩として捉えてきた点である。アメリカの黒人は人種差別制度によって長い間差別されてきたため、人種としての一体性の意識が強く、政治的に一枚岩になって行動すると考えられてきた。

ところが1990年代以降、人目につかない形で黒人移民の流入が始まった。1980年代から90年代にかけて、メキシコ系を中心とするヒスパニックが移民の話題をさらっていたため、カリブ海地域やアフリカから流入してくる黒人移民に注意が向けられることはなかった。黒人移民が注目するようになったのはつい最近のことであり、21世紀に入ってからのことである。

とは言え、黒人移民は今では黒人人口の1割を超え、ニューヨーク市では黒人人口の3分の1を占めるに至った。しかもこれらの黒

人移民はネイティブの黒人と皮膚の色では似ていても、アメリカの黒人社会に同化しようとはせず、政治的意見も大きく異なっている。すなわち、伝統的な黒人研究に、黒人移民研究という新たなジャンルが加わり、黒人研究は新たな第4段階に入ったのである。

当初は、この科研費を活用して資料を集め、「黒人社会の多元化と脱人種の政治」(2012年)を質量ともに2倍に充実させて第1部とし、すでに書き上げている第2部と合わせて、研究書を新たに刊行する予定であった。

### (2) 熊本地震発生による研究テーマの変更

私は熊本地震を震源地の間近で経験し、研究室及び自宅の書斎を半年間利用できなくなった。ちなみに、研究室の書架はすべて倒れて折れ曲がり、使用不可能になった。また予算執行の関係上、新しい書架などの納入も大幅に遅れた。そのため研究書や各種の資料は半年近く段ボールに入ったままの状態であった。

その結果、次の「研究の目的」で説明するように、研究のテーマそのものの変更を余儀なくされた。

## 2. 研究の目的

当初、本研究は、黒人の同質性が崩れ、黒人社会の中に多様な世界が出現してきた点を強調する予定であった。すなわち、黒人移民の流入に着目し、伝統的な黒人社会の中で社会的亀裂が広がっていった点を分析する筈であった。

しかし、前述したように、熊本地震の影響で研究室が研究室として長期間使えなくなり、やむなく、比較的短時間でできる研究に変更せざるを得なかった。

他方で、2016年1月にアメリカ大統領予備選挙が始まると、泡沫候補に過ぎなかったドナルド・トランプ候補が共和党の有力候補を次々に破り、選挙戦を制した。トランプ候

補の勝利は番狂わせであっただけでなく、彼の選挙運動も多くの点で常軌を逸したものであった。そのうちの1つが、トランプ候補によるマイノリティ攻撃である。

白人と黒人の人種間関係は、公民権運動の影響もあって1960年代から1980年代にかけて険悪化した。しかしその後は次第に落ち着きを取り戻し、2008年と2012年の大統領選挙でのバラク・オバマの勝利は「脱人種の政治」の到来を象徴する出来事となった。ところがトランプ候補は黒人に対して警察による厳しい取り調べを意味する「法と秩序」を、メキシコ系に対しては「国境の壁」と不法移民の強制送還を、またイスラム教徒に対しては入国禁止を唱えた。当然のことながら、白人とマイノリティの人種間関係が一気に悪化した。しかしトランプ陣営はそうすることで、ジェシー・ジャクソンの唱えたブラック・ナショナリズムとは逆の、いわばホワイト・ナショナリズムを喚起するのに成功した。

筆者は長年、人種間関係の変化がアメリカ政治に及ぼす影響を考察してきたので、このトランプ現象を避けて通るわけにはいかなかった。トランプ旋風は、人種関係が専門の筆者には、正面から向き合わなければならない研究課題であった。

すなわち、熊本地震の影響で研究時間が大幅に削減され、研究そのものを変更せざるを得なくなった丁度その時、偶然にもトランプ旋風が吹き荒れ、人種問題の専門家なら無視できない新たなテーマが飛び込んできたのである。研究対象の変更は苦肉の策とはいえ、不可避の選択であった。

### 3. 研究の方法

当初、アメリカの黒人社会にもエスニック問題が存在することをあぶり出すために、以下の研究方法を想定していた。

第1に、カリブ海地域とアフリカから来た黒人移民を研究する際、アメリカでのヒアリ

ングはせず、必要な資料などは既に出版されている研究書や研究論文に依拠する。したがって国内のあらゆる研究機関を利用するだけでなく、国内で入手できない資料については、アメリカの研究機関に足を運ぶ。

第2に、黒人移民の考え方や感じ方(世界観)とネイティブの黒人の世界観の違いやズレを抽出する方法として、刊行されている黒人移民の自伝を活用する。

しかし熊本地震の発生は、研究環境を一変させてしまった。研究室を研究室として長期間利用できなかったため、すべての手続きが中断した。具体的には、科研費を利用して文献を購入するのも大幅に遅れ、文献を収集するための長期の出張も諦めた。

研究対象をトランプ現象に切り替えてからは、入手が比較的容易な資料、すなわちアメリカの新聞や雑誌、とりわけシンクタンク発表の各種の世論調査データを主に活用することにした。

研究発表の場としては、1つは研究者向けの論文として「トランプ現象とアメリカの分極化」を著わし、トランプの勝利をアメリカ社会に潜在的にある価値観の対立に関連づけて論じる計画を立てた。もう1つはテキストの改訂版を執筆する予定になっていたのもっと一般向けにわかりやすく、そしてトランプ旋風下の黒人社会の動揺を紹介する計画を立てた。

このように論文を2本執筆する傍ら、依頼があれば講演や研究報告をすべて引き受け、研究成果を社会に還元することにした。

### 4. 研究成果

具体的な成果は、以下の2点である。「トランプ現象とアメリカの分極化」(『アドミニストレーション』第23巻、2017年3月、A4用紙143-152頁)は、2016年アメリカ大統領選挙におけるトランプ陣営の選挙戦略と、トランプ支持者とクリントン支持者では価

値観やアメリカ政治の見え方がいかに異なっているかを、多数の統計資料を駆使して証明した。トランプ旋風が、アメリカ国民の間に潜在していた人種間の亀裂を表に引きずり出し、政治的分極化を顕在化させた点を指摘した。オバマの2度にわたる大統領選挙での勝利はマイノリティを喜ばせた反面、ミドルクラス以下の白人の不興を買い、トランプ陣営はその苦境にあえいでいる白人の不満を吸収するのに成功したと論じた。

他方、「アメリカ政治とマイノリティ」(『アメリカ政治 第3版』第12章、有斐閣、2017年3月、255 - 278頁)は、トランプ旋風が黒人やメキシコ系などのマイノリティに与えた影響を中心に論じている。

すなわち、前者の論文はトランプを支持した白人サポーターの運動や価値観に重点を置いたのに対して、後者のこの論文はマイノリティ側の反応に重点を置いている。

これらの2つの研究成果を科研費の旅費等を活用して研究者、学生、市民に向けてさまざまな場所で発表し、社会に還元した。

(1)2016年12月1日

南山大学の学部学生及び大学院生向けの特別講義「2016年アメリカ大統領選挙」

(2)2016年12月3日

北九州大学で行われたアメリカ史研究会での報告「公民権運動以降の黒人政治」

(3)2017年2月1日

熊本県立大学で開催された公開講座「2016年アメリカ大統領選挙に関する若干のコメント」

(4)2017年2月23日

成蹊大学法学部政治学科主催の政治学研究会での報告「2016年アメリカ大統領選挙」

## 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計1件)

「トランプ現象とアメリカの分極化」『アドミニストレーション』第23巻、2017年、143 - 152頁

〔学会発表〕(計 件)

〔図書〕(計1件)

「アメリカ政治とマイノリティ」『アメリカ政治 第3版』有斐閣、2017年、第12章 255 - 278頁

〔産業財産権〕

出願状況(計 件)

名称:

発明者:

権利者:

種類:

番号:

出願年月日:

国内外の別:

取得状況(計 件)

名称:

発明者:

権利者:

種類:

番号:

取得年月日:

国内外の別:

〔その他〕

ホームページ等

## 6. 研究組織

(1)研究代表者

松岡 泰 (MATSUOKA, Yasushi)

熊本県立大学・総合管理学部・教授

研究者番号：40190425

(2)研究分担者

( )

研究者番号：

(3)連携研究者

( )

研究者番号：

(4)研究協力者

( )